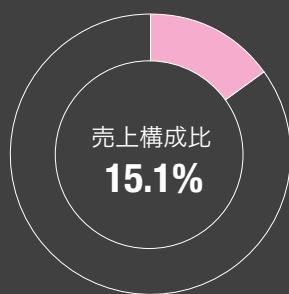


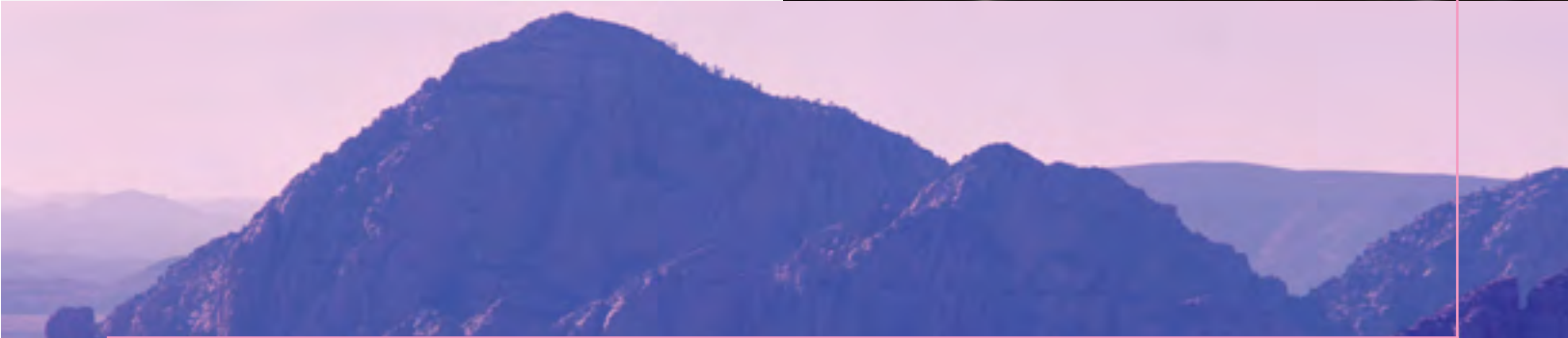
IMAGING BUSINESS

映像事業



ミラーレス+電子ファインダーという新しい技術を駆使したマイクロ一眼カメラOM-Dや小型・軽量のマイクロ一眼PENシリーズなど、従来のデジタル一眼レフカメラの常識を破り、新しい可能性を切り開く製品を提供しています。これからもデジタルカメラや世界トップシェアを誇るICレコーダーを中心に、撮る楽しみ、聴く楽しみを広げる努力を続けてまいります。





Main Products

カメラ分野

デジタル一眼カメラ/コンパクトデジタルカメラ/デジタルカメラ関連製品/
デジタルカメラ向けレンズ鏡筒/光学部品



OLYMPUS OM-D E-M5



OLYMPUS PEN E-P3



OLYMPUS XZ-1



OLYMPUS Tough TG-1

その他分野

ICレコーダー/双眼鏡



Voice-Trek V-803



映像事業グループ
プレジデント

小川 治男

IMAGING BUSINESS

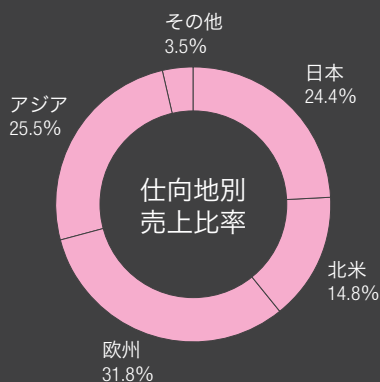
映像事業

連結売上高

1,286 億円

連結営業利益

△108 億円



(2012年3月期末実績)

2012年3月期の業績と取り組み

主力のミラーレス一眼カメラ「PENシリーズ」および、コンパクトカメラで最高水準の画質を実現した「XZ-1」などの高付加価値モデルが、国内・アジア・欧州を中心に売上を伸ばしました。しかしながら、競争の激化および、下期にタイ洪水の影響を受けて一部の部品が調達難となり、「OM-D」をはじめとした新製品が計画どおり投入できなかったことなどから、通期の連結売上高は前期比で減収となりました。営業損益は、売上原価率の改善やコスト削減により損失幅は縮小しました。

なお、為替の影響を除くと、売上高は前期比1.5%増、営業損失は前期比20億円の損失幅縮小となっています。

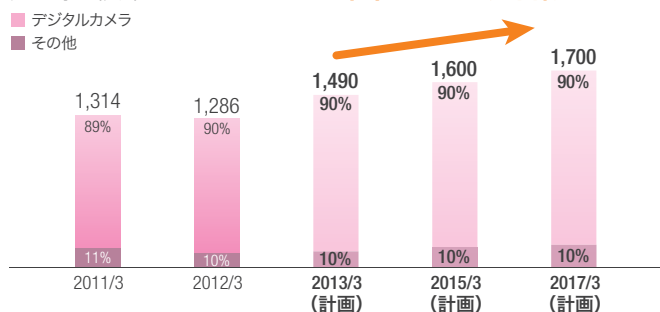
新製品の状況

ミラーレス一眼カメラにおいては、2011年7月以降、第3世代の「PENシリーズ」を継続的に投入し、E-P3を中心に販売は好調に推移しています。さらに、2012年3月31日よりマイクロ一眼の新シリーズ「OM-D」の販売を開始しました。OM-Dはミラーレス一眼として初となる防塵・防滴性能や電子ファインダーの採用など、多くの最先端技術を取り込みながら、より高画質を実現しました。いずれも市場では高い評価をいただき、販売は順調に伸びています。

売上高 (億円)

■ デジタルカメラ
■ その他

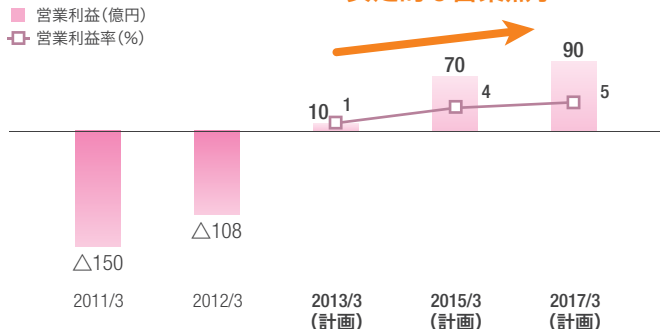
年平均5%成長目標



営業利益/営業利益率

■ 営業利益 (億円)
□ 営業利益率 (%)

安定的な営業黒字



中期ビジョンにおける事業戦略

映像事業

→ 光学・画像技術、
ブランドのドライバー

映像事業を取り巻く環境

ここ数年、デジタルカメラを取り巻く環境は大きく変化しています。特に、低価格帯のコンパクトカメラは、スマートフォンの台頭により、先進諸国を中心に、市場が縮小傾向にあります。

一方で、写真を大切にするお客様からは、高付加価値コンパクトカメラ、あるいは、オリンパスが創出したミラーレス一眼に高い評価をいただき、デジタルカメラ市場の中でも、安定、もしくは、成長しているセグメントです。

市場の変化とお客様ニーズに対応した商品戦略と収益構造の抜本的な改善により、映像事業を再建し、安定的に黒字を確保できる体制を確立します。

基本方針

1

ミラーレス一眼・高価格帯コンパクトへの集中

過去の商品戦略を振り返ると、「差別化技術の不足」と「ユニークネスの喪失」が反省点として、浮かび上がってきました。そのため、ミラーレス一眼では、差別化技術を先行して開発することで、商品のラインナップを充実させ、市場を創出することができました。2012年以降の月販台数は、すでに国内レンズ交換型デジタルカメラ市場の約半分を占めるまでに拡大しており、急速に浸透してきています(調査会社BCN調べ)。

また、もうひとつの注力セグメントである高価格帯コンパクトカメラは、今後、ミラーレス一眼で培った先進技術を展開することで、ユニークネスを追求していきます。2017年3月期には、一眼(ミラーレス・従来機)および高価格帯コンパクトで、売上台数の半分以上を占める計画です。

基本方針

2

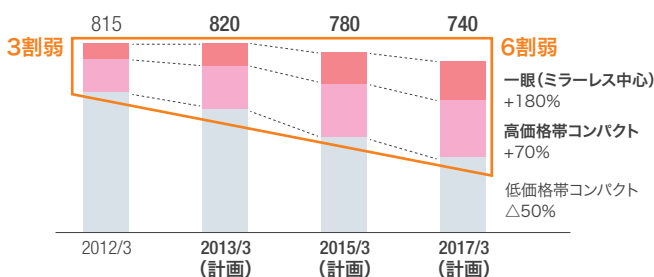
製造原価、販管費等の収益構造の抜本的改善

これまで、デジタルカメラの成長基調をベースに、製造は規模を求めて投資をしてきましたが、機能の再編に着手します。まず、中国の深圳工場には、最新の生産技術を投入し、徹底的な生産性を追求していきます。次に、自社では、付加価値の高い鏡枠と交換レンズの製造に集中し、付加価値を生みにくい組立工程は、OEM/EMSを積極的に活用していきます。

加えて、国内・海外の要員数の最適化などで販管費も改善を図ることで、2015年3月期には、売上原価率を3ポイント、販管費比率は8ポイント改善させる方針です。

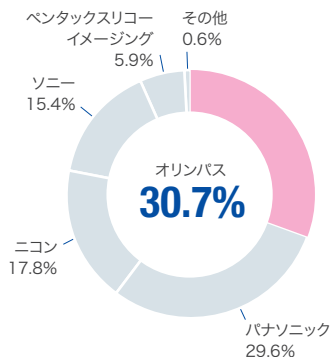
デジタルカメラ売上台数(構成比率)の推移

(単位:万台)



ミラーレス一眼の国内販売シェア

(2012年1~6月)
※BCN調べ



OM-Dの技術

「THE BEGINNING OF THE NEW(新しい一眼の始まり)」

OM-Dは本格カメラマン層の方々のために開発したマイクロ一眼です。一眼レフ特有のミラーや光学式ファインダーの機能を完全に電子デバイスで置き換え、大幅な小型軽量化を実現しました。また、電子ファインダーの採用により、露出やカラーバランスなどをファインダーの中でリアルタイムに確認できるようになりました。

OM-Dにはこれ以外にも、多くの新しい技術が盛り込まれています。中でも特にこだわったのは画質です。「OM」のブランドを復活する以上、それに恥じない最高の画質を実現するために、撮像センサーも新規に開発しました。また、画質の向上で目立つようになる手ぶれには、スチル(静止画)カメラでは、世界初となる「5軸対応手ぶれ補正」を導入しています。ミラーレスカメラの弱点であるオートフォーカス(AF)の速度は、「FAST AFシステム」により、世界最速を実現しました。PENと並行して技術開発を続けてきたOM-Dはその名にふさわしい性能を搭載することができたと自負しています。

このように、当社は最先端の技術にチャレンジし、製品に組み込むことを得意としています。新機能の搭載や製品の小型化は、当社の技術者のスピリッツとして受け継がれてきた誇りであり、今後もファンの方々に喜んでいただける商品を提供していきますのでご期待ください。



オリンパスイメージング株式会社
ブランド戦略担当部長 渡辺 章

※詳細は当社ウェブサイトをご参照ください。
<http://www.olympus.co.jp/jp/corc/technology/omd/vol01/>